

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108
Tel/Fax:048-471-1338
E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/>

第35号 2008年3月

柳瀬川駅 2009年度にエレベーター

天田いづみの議会だより32号(2007年5月)でお知らせした通り、(株)東武鉄道は2009年度に柳瀬川駅へのエレベーター設置を予定しており、市はバリアフリー新法に基き補助金8604万円を交付することが、第四次志木市総合振興計画の実施計画に明記されました。

柳瀬川駅についてはエスカレーター設置(1999年)に車いすの市民とともに取り組み、視覚・聴覚等多様な障がい者、ボランティア、工事・東武鉄道関係者、行政による設置前の現場点検会を経て、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの観点を反映できました。

当時から「足が不自由な人にとっては下りのほうが必要」とのご意見はいただいており、エレベーターが設置できないか検討しましたが、ホームの幅が狭いため、やむなく上りのみのエスカレーターとなったのです。

長年高齢者やベビーカー利用の若いお母様方からエレベーターへのご要望をいただき、議会で(株)東武鉄道への要望等を市に働きかけてきました。

バリアフリー新法で2010年までに設置が義務付けられていることもあり、視覚障がい者誘導ブロック、身体障がい者用トイレも合わせて設置され、障がい者団体等のご意見も反映される予定です。

身近な場所での介護予防を

第二福祉センター(柏町)で昨年6月から行われている介護予防事業(市が地域包括支援センター 柏の杜に委託)を、2月12日に視察しました。

以前デイサービスで使われていたトレーニングマシン等、機能訓練のための器具を活用し、毎週火曜日午前10時から11時半まで、介護予防運動指導員・看護師のサポートで、十数人の高齢者がそれぞれの体力・身体機能に応じたメニューで、積極的に体を動かしています。

私も高齢者の方々に教えていただきながら体験してみましたが、運動の苦手な私でもこれなら出来ると実感。皆さん慣れてきて、自分で回数を数えながら次々とメニューをこなしています。譲り合い励ましあって和気あいあい、最後に皆で看護師さん手づくりの玄米入りダンベルを持って、歌に合わせて一緒に体操、とっても楽しいひと時でした。

「一時全く歩けなかったのに、休み休み駅まで歩けるようになった。こうなる前に、ならないようなこうした活動がとても大事、元気な方々に混じって気持ちまで明るくなる。」



と、話される顔は輝いています。

また、「今は幸町の新座に近いところからここまで歩いてこられるが、将来は足が弱ったら来られない。幸町には何もないので。」というお話もうかがいました。

2～3月議会での市長の施政方針演説では、「2008年度に西原特定土地区画整理区域内の多目的公共施設用地(約1200㎡)を、約3億円の予算を計上し土地開発公社から買い戻す。

健康増進と地域保健の機能を有する拠点施設と地域コミュニティの拠点となる施設の融合した複合的施設の建設について、建物等の建設費用については、西原特定土地区画整理組合の財政支援をいただくことを基本的な考え方とし、施設内容等を含め鋭意関係するみなさまとともに協議を進めていく」ことが明らかにされました。

既に福祉センター(中宗岡)、第二福祉センター(柏町)では介護予防事業としてシニア体操やカッピ体操が行われており、遊・志木中宗岡(株)ウィズネット)、ブロン(社会福祉法人ルストホフ志木、本町)では特定高齢者の運動器の機能向上事業が行われています。

館地区では市民体育館、幸町地区では新たな拠点施設等を視野に入れ、高齢者が歩いていかれる身近な場所での介護予防事業の展開を求めています。

2007年12月議会 一般質問より

■ 今後の都市計画について

高度地区(原案)は、富士前田子山土地区画整理地域・上宗岡三丁目地区計画区域・志木ニュータウン地区を指定区域から除いただけで、地域それぞれの実態に応じたものにはなっていません。

「25メートルより低い高さ制限を求める方々は、住民自ら地区計画で決めていって下さい」との市の姿勢に対し、住民からは「従来から12メートルを

求めているのになぜできないのか。」「行政が一律25メートルに指定しておいて、住民に地区計画でやってくださいというのは、あまりに安易。市の職員は何の努力も労力も要らないのではないか」等の厳しい意見が出され、私は非常に危機感をもちました。

更に、4年間もかけて市民参加で2000年に策定された都市計画マスタープランの土地利用方針を見た方々は、「この時点で詳細に地域の実態に応じた土地利用方針が出されているのに、行政は今まで何をやってきたのか。」

この計画が進捗されずに、結果的に放置されてきた中で今回の高度地区指定に対し、住民からは行政への不満、不信感が出され、私は大変重く受けとめています。

私が再三議会でとり上げてきた緑の基本計画についても、2001年度以降全く推進体制がとられていません。

12月議会初日には長沼市長から、「景観行政団体に県の同意を得てなることができた。今後景観計画、景観条例の策定に向けて行政として一生懸命取り組んでいきたい」という報告があり、それ自体は評価しますが、2001年に市民参加で策定された都市景観形成基本計画は、殆んど手付かずで、市民にも知られていません。

行政は、市長が代わっても停滞することのないように、計画的に進めなければならない(地方自治法)とされ、総合振興計画をはじめ多くの計画を持っています。

志木市では、せっかく市民と行政で一生懸命つくり、内容は良いものに仕上がっているのに、生かされておらず、経費のみならず貴重な市民・職員の創意工夫や労作が生かされていません。行政の計画性どころか、計画性のない行政と言われても致し方ないのではないのでしょうか。

都市計画行政はハードからソフトへ、ものをつくるだけの発想からまちづくりのマネジメントへと、とくに転換していなければならなかったのです。

2008年4月の組織改正では、都市計画課で都

市計画マスタープラン、土地区画整理事業、景観に関すること等を総合的にとらえていこうという意図が感じられますが、組織を変えるだけではなく、みんなが本当に市民と一緒に作った計画を大切に推進していくんだという体制にならない限り、市民に伝えていかれないと思います。

長沼市長は「市民協働で計画を策定しても、必ずしも一般の市民に周知されていない状況については、私も心を痛めている。課題として、各種マスタープランが議会の議決事項になっていないこと、都市計画に関するマスタープランについても、全てが都市計画審議会の議決案件となっていないこと等がある。

今後、景観計画の策定作業においては、ご指摘の点も参考にしながら進めていきたい。」とのことでした。

■ 学校教育について



(1) 教育相談体制の充実

教育サービスセンターについては1991年、当時の秋山教育長が命を懸けて創られ、教育はサービスであるとの理念のもとに相談・研究・研修という3つの柱で運営されてきました。4月からは教育サポートセンターとして、教育相談体制の一層の充実を図っていききたいということですが、コーディネートしていくサービスセンターの機能が重要です。

現在、子どもに関わる相談員は2名だけれど、保護者に関わる相談員は1名のみとのこと。

また、従来から予防の大切さを強調してきましたが、治療的なサービスではなく、幼少期からの軽度発達障害等への適切な対応により、不登校や問題行動等への移行を防ぐことが重要です。

特に、中学校では、生徒指導に追われて手がまわらない現実がありました。

2007年4月から全ての中学校にサービスセンター相談員が配置され、相談件数も増えて、問題が顕在化したのは良いことですが、校区の小学校までは手がまわっていないのが現実のようです。

本来、小学校段階からの適切なサポートが必要なのです。

柚木教育長からは「専門的知識や経験を有する相談員の確保に一層努めるとともに、相談体制の仕組みについても創意工夫しながら、不登校や特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の悩みや苦しみを早期に受けとめる体制を一層充実していきたい」との答弁がありました。

(2) スクールソーシャルワークをどう進めるか

少子高齢化、核家族化、地域社会のつながりの希薄化等の中で、親自身もコミュニケーションのとり方がわからないなど、学校・家庭・地域社会の間をつなぐスクールソーシャルワークの機能が必要とされていると考えます。(ソーシャルワーク=社会福祉活動に関する知識と技術の体系)

新たな人材の確保は難しくても、今ある社会資源を有効活用して、家庭や学校を支援していくことが重要です。

法律的な問題解決については、市の顧問弁護士に教育委員会を通して相談することができると思います。

また、様々な課題を抱えたご家庭の状況については、市の要保護児童対策地域協議会に児童相談所・朝霞警察署・朝霞保健所等の関係機関が入り、連携をとれる体制になっており、既にきめ細やかな対応がなされているということです。

さらに、以前から提言してきましたが、学校関係者が精神疾患等、精神保健福祉について学習していくことにより、専門職との連携のもとで、安心して地域社会のあらゆる方々と、よりよく適切に関わっていくことができると思います。コミュニケーションを円滑に図っていかれる手法を身につけることも、大変重要です。

柚木教育長からは「今日の相談業務内容は、多種多様な要因を背景とした非常に困難なケースが多くなってきている。そのため、児童・生徒が自力では適切に対応できないケースも多く、さらに保護

者と教員だけでも解決できないケースも増えてきている。

こうした相談者一人ひとりに対してきめ細かく対応していくためには、多様な専門家の支援による教育相談体制の強化が必要であると認識している。

今後は教員のほか、臨床心理、医療関係、福祉、法律に関する専門家などと連携を図っていくことが

必要であり、教育委員会としては、関係機関と連携を図る中で相談業務の充実に努めていきたい。」との答弁がありました。

また、「今年実施したメンタルヘルス研修など、今日的なニーズに対応した研修については、今後も教育委員会が中心となって進めていきたい。」とのことでした。



● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

- 10月4日 認知症予防ワクワクセミナー「認知症の理解と対応について」 セントノア病院院長 浦野純子さん
(地域包括支援センター 柏の杜)
- 6日 天田いづみのティータイム 地域包括支援センター柏の杜 早坂玉緒さん
- 7日 市民体育祭
- 10日 「私たちのごみ」 みんなで考えてみませんか (志民まちづくり塾)
- 12日 定数削減に関わる議員懇談会
高度地区(原案作成)に向けての要望事項について市と意見交換(志木まちづくり懇談会及び市民有志)
- 13日 いろはふれあい祭り(いろはふれあい祭り運営委員会)
志村光昭氏受章記念祝賀会
- 14日 西原特定土地地区画整理事業 線路沿い道路の直線化計画に伴う説明会(東の森壱番街町会)
健康まつり「歯科講話」健康まつり実行委員 宗岡二小・宗岡中歯科校医 西野博喜さん
なぎの会邦楽コンサート
- 17日 朝霞地区防犯協会定期総会
- 20日 新河岸川流域フォーラム 九州大学工学研究室環境都市部門流域システム研究室 島谷幸宏教授等にフィールドワークで志木市の治水、利水の歴史を紹介(新河岸川流域川づくり連絡会他)
異世代協働プログラム 室内楽コンサート(はらっぱの会)
- 21日 しょうがい児が自立する為に『働く』を考えるシンポジウム(朝霞手をつなぐ育成会)
- 23日 東武東上線神明橋梁枕木交換に伴う電車通過時の不快感を聴く...政策審議室、環境推進課
- 24日 議員定数削減に関わる会派代表者会議
朝霞地区議長会議員研修会「教育の現状と課題」埼玉大学教授前県教育長 稲葉喜徳さん
- 27日 市政功労者表彰式典
- 28日 環境デー クリーン作戦 柳瀬川台風後のごみ拾い
コスモスまつり
- 11月2日 議員定数削減に関わる会派代表者会議
- 4日 市民文化祭、市展、菊花展覧会
- 5日 サミットストア柳瀬川駅前店発地店長、市民と懇談



高度地区(原案作成)に向けての要望事項(回答)について市と意見交換(志木まちづくり懇談会及び市民有志)

8日 市民病院に入院中の子どもたちへの市民ボランティアによる絵本の読み聞かせ視察

9日 消防ふれあい広場・・・救急講習「心肺蘇生法(AED)」を体験(志木消防署)

10日 すずらんまつり(障害者支援施設すずらん)

11日 市民まつり、村山快哉堂まつり

13日 全員協議会・・・254バイパス事業、市内の県事業概要について、組織機構の見直しについて新河岸川の歴史を残す3本の堤防等文化財について意見交換(生涯学習課 今野主幹)

15日 認知症予防ワクワクセミナー 体験「脳トレーニング」作業療法士 前原理恵さん(地域包括支援センター柏の杜)

16日 朝霞地区4市消防団連合点検

17日 放課後子ども教室(志木二小)見学

19日 高度地区(原案)についての要望事項について市と意見交換(志木まちづくり懇談会及び市民有志)

20日 宗岡水害の歴史伝える惣囲堤の樋門視察 案内 吉野益雄さん

21日 志木福祉フェスティバルシンポジウム やどかり情報館館長 増田一世さんほか(社会福祉協議会)

28日 東武東上線神明橋梁枕木交換に伴う不快感について立会・・・東の森壱番街町会、東の森貳番街町会、(株)東武鉄道

29日～12月18日 市議会定例会

12月1日 マイバッグキャンペーン及び志木市自作マイバッグ、標語入選者表彰式典

2日 防災講演会 防災システム研究所所長 山村武彦さん

8日 「地域DE子ども見守り隊」第2回ふれあいコンサート(志木四小にて)

23日 (株)東武鉄道夜間神明橋梁工事

25日 志木地区衛生組合議会・・・2007年度補正予算に対し質疑

28日 市民体育館階段に設置(12月3日)された手すり視察

2008年

1月2日 柳瀬川上流清瀬市金山調節池・柳瀬川回廊視察

13日 朝霞地区四市里親会講演会「児童福祉施設の子どもたち」児童自立支援施設埼玉学園長 井関典雄さん

消防出初式

18日 アフターファイブ(21しき市民会議5期)新年会

23日 志木市民生委員推薦会

24日 臨時議会・・・人事院勧告に伴う職員給与改定

25日 教育フォーラム(ワークショップ)に参加(志木二中)

27日 志木市美術協会展

2月9日 きゃろっとセミナー「みんなちがってみんないい」座間手をつなぐ育成会キャラバン隊(NPO法人生活支援きゃろっと)

12日 介護予防事業視察(地域包括支援センター柏の杜)

20日～3月17日 議会定例会



わたしたちの手で つくろう 志木！！

＊ ＊ 天田いづみの将来あんしんビジョン ＊ ＊

市民自治実現のために【行政・市民協働】

- 将来を見据えた行政のマネジメント機能（現状把握、政策立案と実行）をしっかりとさせます。
- 専門性や経験豊かな人材を積極的に取り入れ、行政の機能をパワーアップします。
- 市民協働による各種計画の進行管理に市民の知恵や活動を活かします。
- ボランティアや市民活動、市民事業を活発にし、いきがいとたすけあいをすすめます。
- 地域の産業・事業活動を大切に、サービスの地産地消をすすめ、コミュニケーションと活力ある地域社会をつくっていきます。

このまちで暮らし続けたい【保健・医療・福祉】

- 災害時要援護者等、地域でのたすけ合いのしくみづくり、見守りネットワークをつくっていきます。
- 予防、健康づくりをまちぐるみで推進し、医療・介護の負担を軽減します。
- 誰もが医療・介護に必要な情報を得られ、誰もが適切な医療・リハビリテーション・福祉サービスを受けられるようにします。
- 歩いていかれる身近な場所に筋力トレーニング等ができる介護予防拠点や、つどい楽しめる小地域サロンをつくっていきます。
- 市民病院の診療体制を充実し、市民や地域の医療機関とともに、良質で安心できる地域医療体制をつくります。
- 障がい者の就労支援策を積極的に推進します。

新しい未来をつくる【子育て支援・教育】

- 様々な悩みを抱える子育て家庭が必要な支援を受けられるサポート体制を充実させます。
- 小規模校への支援策を充実し、全ての小中学校で行き届いた教育が受けられるようにしていきます。
- 特別支援教育を充実し、一人ひとりの教育ニーズに応えていきます。

くらしに笑顔と生きがいを！！【文化スポーツ・生涯学習】

- あらゆる公共施設を拠点に、生涯にわたる環境教育・健康福祉教育やスポーツ・レクリエーション等を展開します。
- 志木の歴史を伝えるまちの宝物・文化財を生活に活かしながら子どもたちに残し伝えていきます。

子どもたちに残せるふるさとを【環境・都市計画】

- 地域毎の実態に合った建築物の高さ制限、景観等のルールを定めていきます。
- 都市計画を、環境・防災等を改善できる総合的なまちづくりのしくみにします。
- 温暖化防止のための省資源・省エネルギー、身近な環境を守る活動を、市民・事業者に広げていきます。
- 安全な農産物づくりを応援し、地産地消と食教育をすすめます。

天田いづみさんを応援しています

秋本 義子	岩上 弘	北島 武	佐藤 京子	利岡 聡子	細野 悦子	村野 輝子
秋山 京子	岩本 耕児	木村 豊茂	佐藤 範子	戸田 守彦	前川 ミヤエ	村山 洋史
阿久津由貴江	内海 辰己恵	木村 優子	佐野 仁子	中島 陽子	増田 真樹	村山 律子
阿部 和子	梅川 ひろみ	木村 薫里	佐山 恵子	中島 冷子	松尾 幾代	森口 朋子
天笠 史子	江副 はるみ	熊谷 ミエ子	重岡 操	中村 江美	松木 進	安原 エミ子
荒木 代志子	大関 スマ	栗田 文子	菅澤 礼子	中山 佐智子	松田 信博	安原 三郎
荒牧 晁子	岡田 千明	栗原 裕子	杉山 洋子	西川 朋子	松本 照道	山内 敦子
有元 利恵子	小口 照子	黒崎 浩子	須崎 和代	長谷川 久江	丸山 泉	山内 真
安斎 昇恵	尾崎 雄司	桑山 雅子	鈴木 あい子	羽山 恵子	三浦 純子	山際 幸子
飯島 英子	風見 のり子	間持 寿	鈴木 多美子	引野 勉	三浦 淑江	山崎 光久
飯塚 伸夫	片岡 文子	小堺 美朝子	高橋 得治	引野 直子	三浦 真奈子	山田 和子
五十嵐 妙子	勝部 千恵子	小島 静枝	高畑 瑠子	引野 靖	三浦 永光	大和 憲子
池田 弘子	金川 邦久	小島 千幸	田口 アサ子	久永 幸利	三角 和夫	山本 嘉男
石川 和子	金川 世季子	込山 光広	竹中 啓子	平澤 佳奈	三谷 清子	横山 喬
石川 智恵子	金子 シゲ	込山 三和子	竹村 訓夫	平山 久美子	満園 節子	吉田 めぐみ
石田 幸平	加茂 牧子	小森 寿子	田島 恭子	廣田 千春	宮沢 正安	吉村 ゆき子
磯 志	掃部 泰子	齊藤 英朗	乳井 晃子	富士 くみ子	宮沢 洋子	
磯 均	河田 節子	齊藤 陽子	寺沢 しづ子	富士 英彦	宮下 光江	
井田 紀子	神戸 育代	佐伯 吾勢一	遠山 練治	古谷 俊明	村上 有紀	
伊藤 道代	神戸 久人	坂井 サト子	徳満 和子	細沼 明男	村上 嘉陽	



天田いづみのプロフィール

- ◆自由学園卒業 自由学園幼児生活団勤務
- ◆団地・学校・公園等で農業を使わない活動
- ◆農薬空中散布中止・低農薬有機肥料の米づくりを支援
- ◆県「さいたま地球環境賞」受賞
- ◆志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会委員
- ◆21しき市民会議委員 第5期
- ◆第三次志木市総合振興計画審議会副会長
- ◆エコシティ志木「市民がつくる志木市の環境プラン」づくりに参加
- ◆環境市民会議委員
- ◆市議会議員 3期
 - 総務常任委員会委員長
 - 朝霞地区一部事務組合議員
 - 政治倫理条例制定特別委員会委員
- ◆現在
 - 環境福祉常任委員会委員長
 - 志木地区衛生組合議員

真の市民自治をめざして

一握りのリーダー任せではなく、誰もが地域社会の中でささやかでもそれぞれの役割と責任を果たしつつ、みんなが主役になれる、お互いを大切にし合えるまちを創っていききたい。

そのためには、市議会という場にそう考える市民が入っていかなければと、1996年議員にさせていただきました。

これからの社会に必要なのは共生と連帯です。

みんなで一緒に、より良い志木市をつくっていきましょう！！

そのために、天田いづみはより一層の覚悟をもって、志木市に対する責任を果たしていきます。

踏切の安全へ 警報ボタンが併設されました！ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

東武東上線柳瀬川駅に一番近い踏切で、3月4日、押ボタン式警報装置の設置作業が行われていました。

当踏切については、車いすを利用している市民の方からのご指摘をきっかけに、ベビーカーや高齢者の利用も多く、今後西原特定土地区画整理事業によって一層通行が増えることが予想されることから、「誰もが安全に利用できるように」との観点で、市・朝霞警察署・(株)東武鉄道に働きかけ、皆で取り組んできました。

昨年1～2月、3回の現地立会を行い、市職員・(株)東武鉄道の方々と共に、車いすで通ってみましたが、レールに車輪がはまってしまい、恐い体験をしました。

既設の自動式警報装置（赤外線により踏切内の障害物を検知し運転手に知らせる）には、自動車の立ち往生を察知する機能しかありません。2月6日ときわ台の踏切事故でもその問題点が明らかに

なる中、押しボタン式警報装置（通行人等が押すことにより電車を停止させる）の併設を、2月26日の立会の際に(株)東武鉄道に要望しました。

西武鉄道等では従来から押しボタン式を併設していますが東武鉄道では併設されていませんでした。

5月15日、東武鉄道は計画的に併設していく方針を明らかにし、自動式警報装置を設置済みの踏切250ヶ所のうち25ヶ所に、今年度計6億円かけて押しボタン式警報装置を併設するとのことでした。

6月議会一般質問では、市として東武鉄道改善対策協議会を通じて(株)東武鉄道に、市内踏切への押しボタン式警報装置の併設を要望することを求め、7月中旬に要望書が提出されていました。

ご協力いただきました車いす利用の市民、視覚障害者六星の会、(株)東武鉄道、朝霞警察署、市関係者の皆様には心より感謝しています。

尚、他2ヶ所の踏切には、従来から押しボタン式警報装置が設置されています。

市民体育館階段に手すりがつきました

昨年9月に「市民体育館2階(競技場)から3階(観客席)にかけてはエレベーターもなく、高齢者は階段を昇り降りするのに危険、簡単なものでいいから手すりをつけてほしい。」とのご意見をいただきました。

早速9月27日に現地を視察、市民体育館は1980年の当時の建物で、エレベーターの上は機械室になっており、現状では3階までのエレベーター設置はできないことがわかりました。

やむを得ない対応として、市民体育館を指定管理者として管理している(財)志木市文化スポーツ振興公社に、階段への手すりの設置を要請し、12月3日には1階から3階まで設置されました。(市との協定で100万円以下の工事は指定管理者が行うこととされています。)

尚、車いすの方には2階に身障者用トイレもあり、競技・観覧等利用されているそうです。



志木ニュータウン総合防災訓練にて (08. 3. 9)

ティータイム



3月23日(日)

午後 2:00～4:00

柳瀬川図書館2階会議室

**志木の中で身近に感じていることなどを
気軽にお話しませんか？**

**** これまでの活動とその成果は！ **
天田いづみのホームページでご覧下さい**